



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

8. ブドウ苗木を安定的に生産するための技術マニュアルの作成

[要約]

ブドウ苗木を安定生産するため、慣行の接ぎ挿し法の改善点をまとめたマニュアル及び新たな苗木育成方法である緑枝接ぎ法の技術マニュアルを作成した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

ブドウの苗木生産は、慣行では穂木及び台木の休眠枝を接ぎ挿しして（接ぎ挿し法）生産されているが、接ぎ木部の癒合不良や発根不良を生じやすく、他の果樹苗木と比べて成苗率が低い。そこで、ブドウ苗木の安定生産のため、接ぎ挿し法の改善点をまとめたマニュアルを作成する。また、接ぎ挿し法と比べて安定生産が可能な新たな育成方法（緑枝接ぎ法）を開発したため、その作業手順をまとめたマニュアルも作成する。

[成果の内容・特徴]

1. 接ぎ挿し法のマニュアルは、従来法の改善点を踏まえながら年間の作業手順をまとめた資料である（図1）。
2. 接ぎ挿し法のマニュアルでは、挿し床の温度管理法や圃場定植後の土壌の水分管理法などに関して得られた改善点について記載している。これにより成苗率が従来と比べて2割向上する。
3. 緑枝接ぎ法のマニュアルは、新たに開発したブドウ苗木の育成方法であり、接ぎ挿し法と比べて成苗率が高い本手法の年間の作業手順についてまとめた資料である（図2）。
4. 接ぎ挿し法では、圃場定植後の接ぎ木部の癒合不良による枯死及び生育不良が多いため、上記の改善を実施しても成苗率は約60%である。一方、緑枝接ぎ法では、接ぎ木後の活着及び生育が良好なため、成苗率は約80～90%で生産効率が良い。

[成果の活用面・留意点]

1. 本マニュアルは果樹の幼木期安定生産コンソーシアムで作成したマニュアル（ブドウ編）の詳細版である。
2. マニュアルに記載されたデータは、農業研究所果樹研究室の施設及び圃場における調査結果を基に取りまとめたものである。
3. 本マニュアルは「シャインマスカット」及び「ピオーネ」での結果を取りまとめたものであるが、醸造用ブドウを含む他のブドウ品種についても適用可能である。
4. 作成したマニュアルは、苗木業者及びブドウ生産者向けに下記のアドレスで公開する。
<https://www.pref.okayama.jp/page/923035.html>
5. 苗木生産にあたっては種苗法を遵守する。



[具体的データ]



図1 接ぎ挿し法のマニュアル



図2 緑枝接ぎ法のマニュアル

[その他]

研究課題名：果樹等の幼木期における安定生産技術の開発

（ブドウ苗木の安定生産技術の開発）

予算区分・研究期間：受託（農林水産研究推進事業（委託プロ））・令2～6年度

研究担当者：渡辺真帆、中島譲、藤井雄一郎、安井淑彦、荒木有朋、久保田朗晴、上田一輝、中津有紀子

関連情報等：1）試験研究主要成果：[令3（33-34）](#)、[令6（29-30、31-32）](#)

2）中島ら（2024）園学研 23 別 2：152

3）生産向上に向けた果樹改植のための良質苗木生産、活用マニュアル
：果樹の幼木期安定生産コンソーシアム（2025.03）